

## ○報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン 新旧対照表

新	旧																
<p><b>2-1 要素概念の定義について</b></p> <p>(略)</p> <p style="text-align: center;">図表 2-1 異なる要素概念とみなさないもの</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区別</th> <th style="text-align: center;">考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(略)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期間時点区分</td> <td>                     会計期間又は時点の違いにより名称が異なる勘定科目は、名称リンクの用途別ラベルにより区別し、同一要素として取り扱う。                      例1: 当期純利益又は当期純損失(△)                                中間純利益又は中間純損失(△)                      例2: 現金及び現金同等物の期首残高                                現金及び現金同等物の期末残高                 </td> </tr> <tr> <td>(略)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(略)</p> <p>様式ツリーにおける「貸借対照表」と「<u>中間貸借対照表</u>」、「損益計算書」と「<u>中間損益計算書</u>」等は、同一の様式ツリー上に異なる子項目として出現する可能性があるため、異なる要素としています。また、様式ツリーにおいては「<u>連結個別</u>」ディメンションを用いないため、「<u>連結貸借対照表</u>」と「貸借対照表」、「<u>連結損益計算書</u>」と「損益計算書」等は、異なる要素としています。</p> <p>(略)</p> <p><b>2-2 複数回出現する同一の値に関する要素の共通化について</b></p> <p>(略)</p> <p>(1) キャッシュ・フロー計算書と損益計算書の両方で使用する同一の要素は、間接法における営業活動によるキャッシュ・フローの区分の冒頭に位置する税引前又は税引後の当期損益を意味する要素のみです（<u>中間財務諸表</u>も同様）。それ以外の類似勘定科目は実務上必ずしも一致しないため、異なる要素を使用します。</p> <p>(略)</p>	区別	考え方	(略)		期間時点区分	会計期間又は時点の違いにより名称が異なる勘定科目は、名称リンクの用途別ラベルにより区別し、同一要素として取り扱う。 例1: 当期純利益又は当期純損失(△) 中間純利益又は中間純損失(△) 例2: 現金及び現金同等物の期首残高 現金及び現金同等物の期末残高	(略)		<p><b>2-1 要素概念の定義について</b></p> <p>(略)</p> <p style="text-align: center;">図表 2-1 異なる要素概念とみなさないもの</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区別</th> <th style="text-align: center;">考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(略)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期間時点区分</td> <td>                     会計期間又は時点の違いにより名称が異なる勘定科目は、名称リンクの用途別ラベルにより区別し、同一要素として取り扱う。                      例1: 当期純利益又は当期純損失(△)                                四半期純利益又は四半期純損失(△)                      例2: 現金及び現金同等物の期首残高                                現金及び現金同等物の期末残高                 </td> </tr> <tr> <td>(略)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(略)</p> <p>様式ツリーにおける「貸借対照表」と「<u>四半期貸借対照表</u>」、「損益計算書」と「<u>四半期損益計算書</u>」等は、同一の様式ツリー上に異なる子項目として出現する可能性があるため、異なる要素としています。また、様式ツリーにおいては「<u>連結個別</u>」ディメンションを用いないため、「<u>連結貸借対照表</u>」と「貸借対照表」、「<u>連結損益計算書</u>」と「損益計算書」等は、異なる要素としています。</p> <p>(略)</p> <p><b>2-2 複数回出現する同一の値に関する要素の共通化について</b></p> <p>(略)</p> <p>(1) キャッシュ・フロー計算書と損益計算書の両方で使用する同一の要素は、間接法における営業活動によるキャッシュ・フローの区分の冒頭に位置する税引前又は税引後の当期損益を意味する要素のみです（<u>四半期財務諸表及び中間財務諸表</u>も同様）。それ以外の類似勘定科目は実務上必ずしも一致しないため、異なる要素を使用します。</p> <p>(略)</p>	区別	考え方	(略)		期間時点区分	会計期間又は時点の違いにより名称が異なる勘定科目は、名称リンクの用途別ラベルにより区別し、同一要素として取り扱う。 例1: 当期純利益又は当期純損失(△) 四半期純利益又は四半期純損失(△) 例2: 現金及び現金同等物の期首残高 現金及び現金同等物の期末残高	(略)	
区別	考え方																
(略)																	
期間時点区分	会計期間又は時点の違いにより名称が異なる勘定科目は、名称リンクの用途別ラベルにより区別し、同一要素として取り扱う。 例1: 当期純利益又は当期純損失(△) 中間純利益又は中間純損失(△) 例2: 現金及び現金同等物の期首残高 現金及び現金同等物の期末残高																
(略)																	
区別	考え方																
(略)																	
期間時点区分	会計期間又は時点の違いにより名称が異なる勘定科目は、名称リンクの用途別ラベルにより区別し、同一要素として取り扱う。 例1: 当期純利益又は当期純損失(△) 四半期純利益又は四半期純損失(△) 例2: 現金及び現金同等物の期首残高 現金及び現金同等物の期末残高																
(略)																	

新

別表3 英語名称に関する設定例(五十音順)

日本語	英語
か	
(略)	
繰延資産	Deferred assets
繰延税金資産	Deferred Tax Assets
繰延税金負債	Deferred Tax Liabilities
経常利益	Ordinary profit
契約資産	Contract Assets
契約負債	Contract Liabilities
(略)	
さ	
(略)	
(削除)	
(略)	
ま	
(略)	
未払費用	Accrued expenses
未払法人税等	Income Taxes Payable
(略)	

旧

別表3 英語名称に関する設定例(五十音順)

日本語	英語
か	
(略)	
繰延資産	Deferred assets
(追加)	
(追加)	
経常利益	Ordinary profit
(追加)	
(追加)	
(略)	
さ	
(略)	
四半期キャッシュ・フロー計算書	Quarterly statement of cash flows
四半期損益計算書	Quarterly statement of income
四半期貸借対照表	Quarterly balance sheet
四半期連結キャッシュ・フロー計算書	Quarterly consolidated statement of cash flows
四半期連結損益計算書	Quarterly consolidated statement of income
四半期連結貸借対照表	Quarterly consolidated balance sheet
(略)	
ま	
(略)	
未払費用	Accrued expenses
(追加)	
(略)	